国 内 実 態 調 査 報 告 書

テーマ　　：　中小物流企業Ｍ社の「飲料物流」の評価・改善案提案
ゼミ名　　：　堀内　恵　ゼミ
調査日　　：　2023年9月6日（水）～9月8日（金）
調査先　　：　丸市倉庫株式会社　20号物流センター
授業科目名：　演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ
参加学生数：　12名（3年生）、4名（4年生）

調査の趣旨（目的）

本授業は、中央大学商学部の特色ある授業の一つして実施される取組の一つである。本授業の目的は、①地方における物流会社の戦略、組織間連携を支援する物流の現状を集団的問題発見・分析・解決のための図式化整理し、②そのもとで、改善案や革新の可能性を探り、③最終的に最新の情報技術ベースのビジネスプロセスモデルの構築する一連の実戦能力を養うことである。

調査結果

本授業は、学生自身のビジネスプロセス革新にかかわる知識と実戦能力の育成だけではなく、協力してくれる M 社の社員教育やインターンシップもかねた互恵的プログラムでもある。場合にもよるが、インターンシッププログラムは企業の「人手不足解消の手立て」として学生に単純な仕事をしてもらうことになってしまうケースが多いようである。そうした中、今回の“ライブ”ケースは両者にとってメリットがある。

今回の調査は、まずZOOM会議によって、飲料物流についての戦略ならびに現状の取組みについて報告をしてもらう（5月29日、6月5日、7月10日、7月17日、各100分間）。M社からは、当該ビジネスを運営するために必要となる各種帳票類、飲料メーカー、OEM先企業、納品先、配送業者、倉庫間のデータとモノの流れを整理した物流関係図が学生に提供される。加えて、教員より、入荷と出荷に関わる業務がどのように実践されているのかについての動画資料が別途提供される。これらのデータに基づいて、学生は4チームに別れて、環境戦略分析と業務分析を行う。物流センターでの訪問調査では、飲料メーカや配送業者との間の入・出荷の流れならびに現場と本社事務の流れを確認する。その後、M社の社員の協力を得て、チームごとに準備した分析資料を再考して報告を行った。学生は、①大学の授業で学んできた分析手法を用いて実際の企業のビジネスプロセスをモデル化する貴重な機会を得ることができる。②学生は、この経験に基づいて卒論制作を進めるにあたっての基礎知識を確立することができる。③グループ討議による分析・発見能力の醸成することができる。また、本取り組みは、拓殖大学の安積ゼミと共同で実施していることから、安積ゼミの学生の取組みからのフィードバックも得られた（たとえば、堀内ゼミでは取り上げることがなかったビジネスモデル・キャンバス分析手法をどのように展開すべきかについてて学ぶ機会が得られた）。一方、M 社にとってみると、業務の素人である学生に説明をしつつ、同時に最新か

つ低廉な情報技術を駆使して既存のビジネスプロセスを自ら改革する知識、図式化整理する知識の修得が可能となる。